

# 2019年度入学試験問題出題のねらい・解答例 (推薦入学選考)

中村学園大学〔教育学部〕

## 【小論文】

### 〈出題のねらい〉

本小論文の出題にあたっては、教育学部としての特色を鑑み、失敗の経験から学ぶことの大切さをテーマとする題材を選択した。また、小論文を課すねらいは、資料や文章の内容を的確に捉えて要約することと、自分の考えを述べることができるかを判別するためである。

問1では、公立小学校の教員へのアンケート「あなたは、学校教育の中で、次のことを育てる必要があると思いますか。」の結果をもとに、図を的確に読み取り、それを文章に記述できるかを問う形式とした。「失敗しても立ち直る力」を公立小学校の教員の77%が学校教育の中で育てる必要があると、重要であると思っている。この問題では、公立小学校の教員がどのように考えているかを的確に記述できているか否かを評価した。

問2では、文章を要約できるか、図及び文章から自分の考えを述べることを問う形式とした。小論文の問題文の著者は、「日本の教育現場では、失敗をしないことを学ぶ方法ばかり」、「今の時代は、創造力を身に付けることが大切」、「失敗知識の伝達」、「失敗体験の必要性」を挙げている。保育者・教育者をめざす受験生にとっては、時代の変化により、失敗から学ぶことを考える事は重要である。そこでこの問題では、問題文の筆者の主張を的確に読み取り要約し、「学校教育の中で育てる必要がある力」のアンケート結果の図と合わせて、自分の考えや意見をまとめ、400字以内で他者が理解できるように的確に記述できているか否かを評価した。

### 〈模範解答例〉

#### 問題1.

教員の約八割が「学校教育の中で育てる必要がある力」の中で「とても必要」と考えている。これは、第四位に挙げられているが第一位と大差なく、非常に重要視している。(78文字)

#### 問題2

いまの日本の教育現場では、「失敗をしない」を学ぶ方法ばかりである。以前は良かったが、いまの時代は失敗経験を通じて新たな道を模索する創造力の育成が大切である。それではどうしたらよいか。それは「こうすればうまくいく」ではなく、「こうやるとまずくなる」という陰の世界の知識伝達か、学ぶ人間が実際に「痛い目」にあうことである。しかし、陰の世界の知識、失敗経験は、負のイメージが常につきまとう。図に示されている「あきらめず頑張りぬく力」や「失敗しても立ち直る力」等は、教員が学校教育の中で不足しているからこそ育てる必要があると思っているのではないだろうか。そこで、小学校の教員は、失敗は成功を生み出す「もと」であり、「母」であることを改めて認識しなければならないと思う。また、私たちも失敗経験を生かし、失敗してもあきらめずに解決法を導き出す経験、他人の失敗例を生かす学び等をするべきであると考えます。(394文字)